

農業委員会だより 第84号

今回は、各委員さんの抱負について紹介します。

就任ごあいさつ



会長 小谷 幸次

この度の改選に伴い、会長に選任されました。

2期目とはいえ、身の引き締まる思いであります。この任期3年間、皆様のお知恵をいただきながら努めてまいりたいと思っております。ご指導ご鞭撻を伏してお願ひ申し上げます。

岩美町の農地を

どう守るか



職務代理 賀山 仁司

少子高齢化が叫ばれるなか、農業では、担い手の確保、集落営農を進める等々、色々な取り組みがなされていますが、我が岩美町においてはどうなっているでしょうか。

農業委員として、4期目になりますが、数年前と比べると確かに担い手も集落営農組織も少し増えています。でも、これくらいでは、岩美町全体の農地は守っていきません。土地持ちの非農家は増え、農家の平均年齢は上がり、米価は下がる一方。

せめて、米価が10数年前の価格にもどってくれば、土地利用型農業者がでてくるのではと期待しています。とはいえ、「自分の農地は自分で守る。集落内の農地は集落全体で守

る。」という気持ちが大切ではないでしょうか。

少し良いお知らせがあります。ここ2・3年前から岩美町の遊休農地が解消しつつある地域があります。大変ありがたいことだと思っております。

岩美町全体の農地を守っていくために、微力ではありますが頑張っていきたいと思えます。

農業委員として



中村 庄一

7月の改選で実行組合の推薦をいただき、農業委員を務めさせていただきますことになりました。

大谷生産組合も任意組合から法人組合へと発展し、ライスセンターの建設、光選別機を導入するなど、鳥取県の特別栽培米の認定を受けて、より安全で安心な米を提供できるよう頑張っています。

遊休農地解消再生を進める岩美町農業を守り発展させたいと思っております。皆様のご指導ご協力をお願いいたします。

今期の取り組み



飯野 隆

昭和40年代から始まった水田転作割り当て制度により、特に山間地域では、水田に杉の木を植林し40年以上経過しているにもかかわらず、地目が水田のままになっているところもあると考えられます。

これらの水田を、この任期3年のうちにまず与えられた集落をきちん

と地目調査をして、現況チェックし、地目変更する等の処理を第一の目標として務めたいと考えております。

私は、小田南部地区を担当することになりました。農地パトロールに専念することに心がけます。

この地域は、中山間地域等直接支払交付金の対象地域でもあり、小田南部地区営農組合を組織し、組合員100名余りの皆様に協力をいただき、農地の荒廃防止に努めてまいりました。

どこの地域もいえると思います。が、農業者の高齢化、また若い後継者もいないという現状であり、水田を守る事もできない農家も出ております。

このことを考えた時、営農組合としても長年の念願でもあった農地を預かって管理する組織農事組合法人小田みなみを昨年3月に設立し、地域に貢献できていると思っております。

地域農地は、営農組合の役員と一緒になってパトロールし荒廃農地にならないようにしておりますが、何時荒廃農地になるかわからないような条件のところもあります。目を離さず、気をはっていなければなりません。と思っております。

今の時代、今後の営農組合、法人小田みなみのあり方についてさらに検討し、六次産業(※)のできる組織に向かって勉強し、小田地域の活性化を考え暮らしたい村づくりを目指したいと考えます。

農業委員として

思うこと



濱崎 智照

農業委員として5期目になり非常に責務を感じています。

遊休農地・荒廃農地を解消するため、農地パトロールの実施、併せて地域農業者の相談や指導等に回っております。

産地づくり、集落営農の取り組みができて、地域農業が豊かで若者が魅力を感じる農業になり、将来的には六次産業(※)の取り組みができればと願っています。

農業委員として、兼業農家の支援、環境の保全、次世代を担う子どもたちに対する食農教育の指導、担い手を育てる地域支援農業の世話や活動や就農希望者への情報等々幅広く関わります。特に、女性の視点で農業活性化への取り組みを推進し、女性のネットワークづくり、次世代へつなぐ人と人との絆を大切に「美味しい」「環境に優しい」「安心で安全な農作物」私たちの「命」を守る第一産業を進めたいと思っております。又、その大切さを感じ、農業委員として頑張っていきたいと思っております。

農業委員、

二期目にあたって



山本 昭

このたびの改選で、引き続き農業委員を務めさせていただくことになりました。

1期目の1年は、何もわからず農地法等の勉強に費やし、2年目より、まず担当地区での水稲農地の地権者、耕作者の現況を把握して、委員になる前より気になっていた遊休農地・耕作放棄地の解消、再生に取り組まれました。

お陰で、再生可能な放棄地を地権者と集積利用との合意形成が可能となり、約170アール程解消することができました。しかし、まだ農